島根県水産技術センター　漁況情報　平成 22 年 6 月 24 日発行

# トビウオ通信　（H22 第 5 号）

（本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。）
http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　（TEL 0855-22-1720）

## 《平成 21 年漁期の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網 1 種漁業（かけまわし）

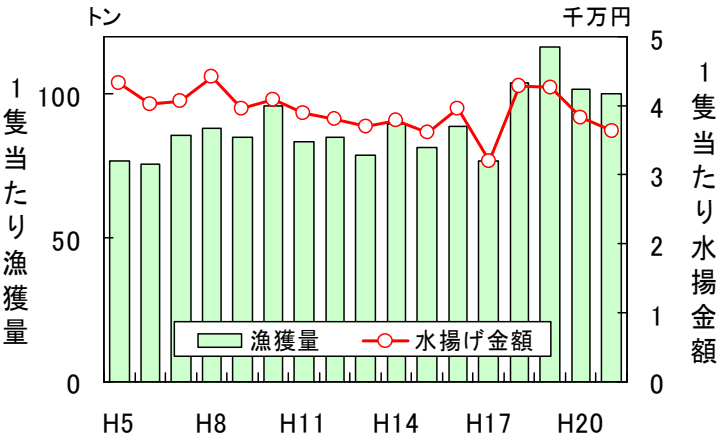


図 1　小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

### 1 隻当たり漁獲量・金額，前漁期を下回る！

島根県の小型底びき網 1 種漁業（かけまわし）54 隻*の平成 21 年漁期（平成 21 年 9 月 1 日～平成 22 年 5 月 31 日）の総漁獲量は 5,422 トン、総水揚金額は 19 億 6,341 万円でした。1 隻当たり漁獲量（以下、CPUE）は 100 トン、水揚げ金額は 3,636 万円で、いずれも前漁期を下回りました。また、平年（過去 10 ヶ年平均値；90.5 トン、3,829 万円）と比べ、漁獲量は 11%上回りましたが、金額は 5%下回りました（図 1）。小底における平均単価は下落傾向にあり、10 年前には 460 円台であったのが、最近 3 年間では 360～370 円台で推移しており、過去 15 年間で最低の単価となっています。

＊当漁業における島根県全体の操業隻数は 56 隻ですが、統計は 54 隻分の集計です。

### ソウハチ　前漁期の 7 割の水揚げ

ソウハチの CPUE は 17.4 トンで、前漁期の 7 割の水揚げに留まりましたが、平年並みの水揚げでした。特に冬以降本種への依存度が高く、全漁獲の 3 割を占めました。ムシガレイの CPUE は平年をやや下回る 4.6 トンでした。また、ヤナギムシガレイの CPUE は 1.2 トン、メイタガレイの CPUE は 0.8 トンで平年の 6～7 割の水揚げに留まりました。

### ケンサキイカ　好調！

ケンサキイカの CPUE は 3.9 トンで、平年の 1.4 倍の水揚げとなり、H8 年, H15 年（4.3 トン）に次ぐ値となりました。特に休漁明けの 9 月に漁がまとまり、140 トンの水揚げがありました。一方、ヤリイカの CPUE は 0.5 トンで、平年の 2 割の水揚げに留まり、過去最低の水揚げとなりました。

### アカムツ　過去最高！

アカムツの CPUE は 3.8 トンで、前年の 1.4 倍、平年の 1.8 倍の水揚げがあり、H5 年以降最高の水揚げとなりました。特に、2 月以降、小型魚を主体に漁がまとまったのが漁獲増の要因となりました。ニギスの CPUE は 14.3 トンで、平年を 3 割上回りました。キダイの CPUE は 4.1 トンで平年の 7 割の水揚げに留まりました。また、アンコウの CPUE は 7.7 トンで、平年並みの水揚げがありました。

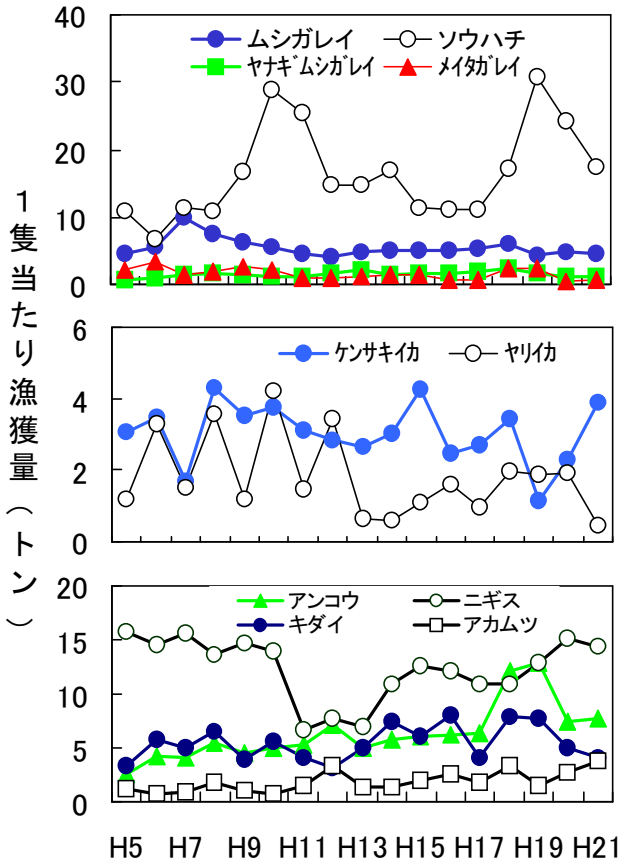


図 2　小型底びき網漁業における主要魚種の動向

# 沖合底びき網漁業（２そうびき）（県西部）

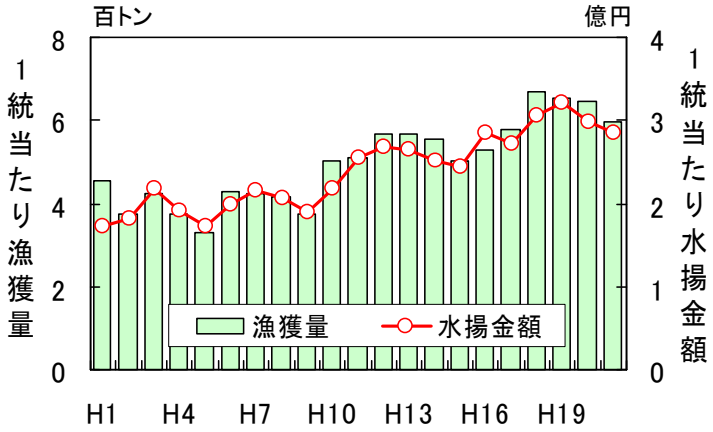


図３　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における１統当たり漁獲量・水揚金額の動向

## １統当たり漁獲量･金額，平年を上回る！

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数５ヶ統）の平成21年漁期（平成21年８月16日～22年５月31日）の総漁獲量は2,994トン、総水揚金額は14億3,085万円でした。また１統当たりでは、漁獲量599トン、水揚げ金額２億8,617万円で、前漁期を下回りましたが、平年（過去10年平均値　578トン、２億7,675万円 ）を僅かに上回りました。今期は、休漁明け当初から大型クラゲの来遊が確認され、大量入網や破網など、操業に影響が出ました。

## カレイ類　全般的に低調

主要魚種であるムシガレイのCPUEは88トンで、平年を僅かに上回りましたが、前漁期の８割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチのCPUEは32トンで、前漁期を大きく下回り、平年の７割の水揚げに留まりました。またヤナギムシガレイのCPUEは17トンで、前漁期を僅かに下回り、平年の８割の水揚げに留まりました。

## ケンサキイカ　まずまずの水揚げ

ケンサキイカのCPUEは36トンで、平年の９割の水揚げでした。秋漁は、好漁であった前漁期をやや下回りましたが、まとまった漁が見られました。一方、春季は例年を上回る水揚げがありましたが、依然として低水準です。また、ヤリイカのCPUEは３トンで、前漁期の６割、平年の５割の水揚げで、資源回復の傾向は全く見られません。

## アカムツ好調！イボダイ過去最高！

アカムツのCPUEは24トンで、前年の1.2倍、平年の1.5倍の水揚げがありました。今期は小型魚(メッキン)が漁期を通して安定して水揚げされ、特に3～5月に漁がまとまり、漁獲増の要因となりました。しかし、単価の低い小型魚が主体であったため、平均単価は低い値で推移しました。

一方、アナゴのCPUEは40トンで、平年を僅かに上回りました。アンコウのCPUEは29トンで、前漁期、平年を下回り、減少傾向が続いています。またキダイのCPUEは27トンで、前漁期、平年を下回りました。

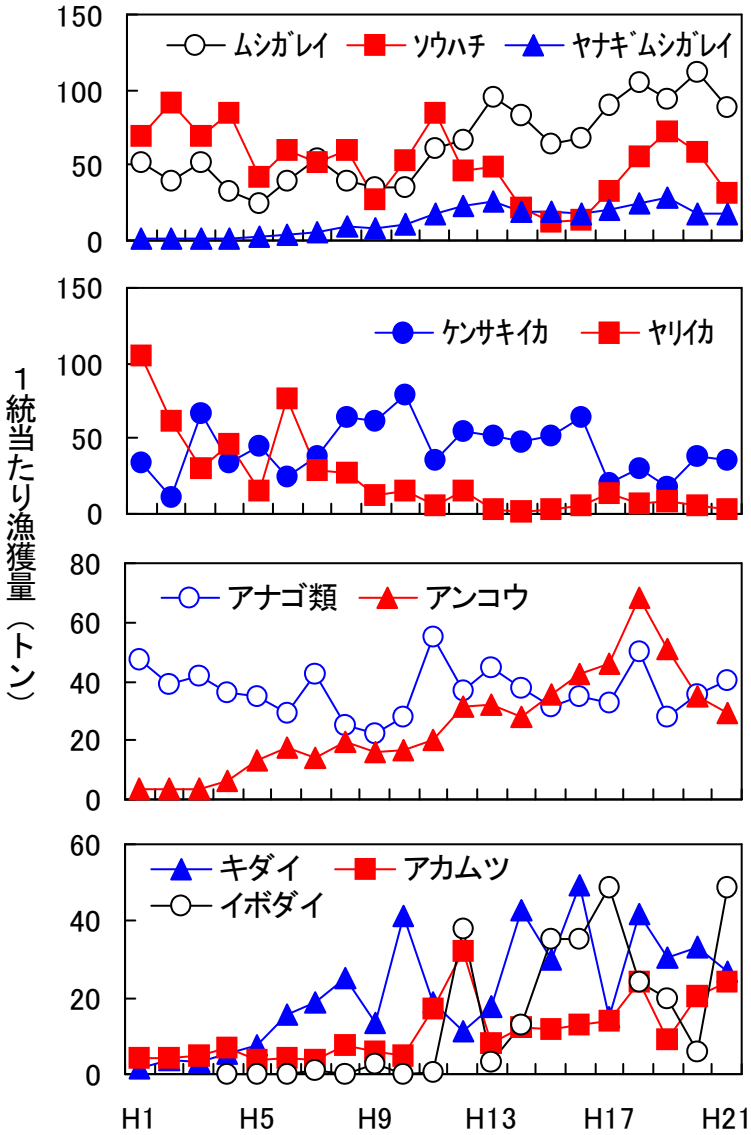


図４　浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

この他、大型クラゲの来遊に伴いイボダイの水揚げが増加し、CPUEは49トンで平年の2.2倍の水揚げとなり、H4年以降最高の水揚げとなりました。また、近年、冬季から春季にまとまった水揚げのあるマフグですが、今期は1～2月にまとまった漁があり、CPUEは53トンで、平年の2.5倍となり、H19年に次ぐ水揚げとなりました。